

平成 30 年度 第 1 回 逗子市福祉プラン懇話会 概要

日時 2018 年（平成 30 年）7 月 6 日（金）

午前 10 時から

場所 市庁舎 5 階 第 4 会議室

1. 開会

2. 議題

（1）基幹計画に係る進行管理の視点について

資料ア、資料イに基づき、逗子市総合計画に定められている事業の進捗管理に係る視点や評価基準等について、説明を行った。

（2）逗子市福祉プランの進捗状況等について

概要

◆地域福祉計画・地域福祉活動計画について

個別計画進行管理表総括表

総括

お互いさま活動は、地域福祉の基盤として広く地域に浸透しており、いくつかのチームにおいては、災害時を見据えた要支援者の把握や支援プランの作成まで、独自の取り組みが行われている。一方で、関心が薄い地域も存在し、地域福祉教育では、積極的な地域の取り組みを全市域に周知し、自らの地域について考え、具体の取り組みにつながる人材の育成を図っている。地域自らの力に期待しながら、今後も公・共それぞれの役割を果たしていくことで、目標の達成ができるものと考えている。

審議会・懇話会等の総括意見

当計画は、地域で福祉活動が浸透することを目指して策定されたものであり、地域へ向けて展開する市及び市社協の施策は手段に過ぎず、効果として地域の福祉についての実感を検証しなければ評価は難しい。懇話会としては、地域の福祉に対する関心は高まっているように思うが、懇話会の意見だけでは充分でないことを認識して欲しい。住民が主体的に取り組む地域を目指し、長い道のりではあるが、地道に進んで欲しい。

各メンバーからのご意見

- ・市、社協の取り組みについて、よくやっている。
- ・評価の方法について、事業をやった上で把握した問題や課題を整理し解決していく具体策について検討できる場があるとよいのではないかと。

あるいは、懇話会メンバー以外にも活動されている方の意見も把握できる場面を設けてはどうか。

- ・ 厳しい意見がいくつかあるが、あくまで実際に活動されている方々が役割を担った上で積極的に取り組んでいきたいという意志の表れであり、その気持ちを大事にしていくためにも、そういった方々が効果的・効率的に取り組んでいくための仕組み…具体的には一部の人に過重な負担がかからないようなコーディネート機能をもたせるような新たな仕組み作りが必要ではないか。

アドバイザーからの講評

市・社協への評価がとても高い。様々な活動・事業がなされているが、その結果、住民がどのように理解したか、住民の役割がどのように認識され明確になったか、この計画を実施して住民の活動がどう変化したのか、活発になったなどの、全体としてどんな波及効果があったのかがなかなか見えてこない。成果をどのように可視化していくのが今後の課題である。

◆健康増進計画について

個別計画進行管理表総括表

総括

総合的病院誘致以外の4つの事業については、ポピュレーションアプローチを含む、健康無関心層へと働きかける要素が多く、短期間での達成が困難なものであるが、限られた資源の中で工夫を複数した点で評価した。

総合的病院誘致は、覚書の締結、推進本部会議の開催、広報等での周知など、内容的には着実に進行している。

審議会・懇話会等の総括意見

よくやっている。健康増進事業に関しては、市民に対して分かりやすい発信であり、流動的に変化させながらやっている。対象者を飽きさせない、目を向けさせるコツである。今後も継続されたい。控えめな評価をしている。もっと、評価してよい。

各メンバーからのご意見

審議会・懇話会等の総括意見と同様。

アドバイザーからの講評

どのような住民がどれくらい参加しているか、かなり細かく説明があり分かりやすい。ただ、各事業間がどういうふうにつながっていて、全体でどういう成果があがったかは見えにくい。在宅医療がどのように行われているの、情報提供がどう行われ、住民にどう理解されているかはわかりにくいところ。このような評価には量的評価と質的評価の議論がよくあるところだが、住民や当事者、現場のワーカー等に丁寧に意見を聞かなければ質的評価はできない。事例を集めたり、アンケートを集計して現状を知るなどによる手法を検討し示していく必要があるのではないか。

◆高齢者保健福祉計画について

個別計画進行管理表総括表

総括

第6期における地域包括ケアシステム構築の取組みについて、平成29年度は、介護予防・日常生活支援総合事業への円滑な移行と一部事業内容の再編を行ない、また、基幹型地域包括支援センターを中心とした、4か所の地域包括支援センターによる包括的支援を実施したことにより、29年度末の元気高齢者の割合は、80.76%となり、前年度より増加した。

審議会・懇話会等の総括意見

介護予防普及啓発事業について、利用者の減少について、高齢者センター浴場のボイラーが壊れたことを一因として挙げられたが、委託先のズシップ自体が新規の会員が少なく、参加者に繋がらないのではないかと懸念されている。利用者の減少や、浴場の故障について、深刻に受け止めるべきである。お金をかける必要がある部分は、かけないと、問題である。高齢者センターが機能しないということは、社会参加の機会を消してしまっていることになるのでは。インフラ面の整備は大切である。是非、ボイラーを改修していただきたい。また、認知症地域支援推進事業については、成果があらわれてきていると思われる。

各メンバーからのご意見

- ・以前にも話題となったが、計画が7つあり、事業ごとに予算規模・労力等が違う中で同一の評価指標でいいのか。この評価シートだと事業の目標率に対する達成状況の評価であって、懇話会では説明は受けているが具体的な内容が見えてこない。
- ・全体的には、数値的にはよくやっているが高齢者センターの問題や認知症サポーターの具体的な活動、評価が見えてこないから記載すべき。
- ・コンビニ、銀行等での取り組みについて、逗子で認知症になっても安心して暮らせるとまでは言えないが、しっかりと認知症に対しての意識が高まっているということを記載すべき。

アドバイザーからの講評

個別計画懇話会の意見で、包括支援センターがどのように機能しているのか、周知し役割を明確にすべきということが書いてあるが、やはり住民がどう情報を受け取ってどう理解して、というところが見えてこない住民とのズレが生じてしまう。メンバーから評価指標のあり方を考えるべきとあったが、そのとおりだと思う。

◆障がい者福祉計画について

個別計画進行管理表総括表

総括

グループホーム設置、知的障がい者雇用報償金については、順調に進捗している。また、療育教育総

合センターを中心とした障がい児支援の充実が図られている。障害者差別解消法の施行に伴い逗子市障がい者を理由とする差別の解消の推進に関する職員対応要領を策定し、これに基づき全職員を対象とした研修に加え、管理職を対象とした研修を実施した。評価としては、概ね順調に進捗している。

審議会・懇話会等の総括意見

全体的には予定通り進捗している。全ての事業に共通して障がい理解促進・普及啓発が課題であり、制度の周知や理解促進のための研修・講演会、連携の仕方や会議の在り方について検討してもらいたい。計画にある内容が実現できるように、市としても継続して事業推進を行ってほしい。

アドバイザーからの講評

数・量だけでなく住民の理解・啓発が重要である。住民の理解・啓発がどのように進んでいるのか、できているのかが明確にできるような評価の仕方を考えていくべき。

◆子ども・子育て支援事業計画について

個別計画進行管理表総括表

総括

「誰もが心豊かに子育てできるまち」を目指して各事業とも連携しながら事業展開している。

審議会・懇話会等の総括意見

事業はおおむね順調に進行しているが、進行管理表に記載されている数値だけではなく、事業の具体的内容や、数値の背景にある問題点や原因の分析、検証する必要があるのではないかと。

各メンバーからのご意見

- ・前回の福祉プラン懇話会で受けた、数値で判断するのではなく質で評価するべきという指摘を子ども・子育て支援計画懇話会の中で担当の方々に質問をした。例えば妊産婦・乳児訪問事業は100%に近い実施率であり評価としてはAだが、最近の母子関係・福祉関係・ファミリーの様子等をききたい。懇話会で担当者が答えてはくれたがこういった点を評価の中で確認できるとよい。
- ・「施策体系1 教育・保育の量の確保と質の向上をめざします」で学童の話題が出た。学童がこの分野に入るか判断はできないが会議の中で課題・問題が上がったので「審議会・懇話会等の意見」の欄の中で記載していただければと思う。
地域によって学童の待機小学生が出そうなどころもある。その施策もしているようなので記載があればなおよい。

アドバイザーからの講評

他の計画と同様、評価の手法について、住民がどう感じているか、情報が役に立っているのかなどの住民の理解度や要望が明らかになっていくような評価をどのように行うかがポイント。

《アドバイザーからの全体の総括》

評価指標に対してどのような成果が上がったかどうかということも大事だが、今後は指標以外の成果も可視化したほうがよい。

可視化するにあたっては、

- ・住民の要望がどれだけ明らかになったのか
- ・様々な事業を行っているが、関連の事業とどのように繋がっているのか
- ・組織・団体のネットワークの形成・連携がどのように進んだのか
- ・行政と住民の役割がどれだけ明確になったのか
- ・住民の理解がどれだけ進んだのか
- ・理解したことによって住民の活動がどのように活発になったのか

の視点がポイントになる。もう一步進んだ評価方法を考えてみたらいかがか。

一律の評価方法だと評価できない部分が出てしまうので、計画ごとに評価方法が違っていてもいいのではないか。

◆基幹計画進行管理表について

- ・それぞれ5つの計画の評価は、地域福祉計画・地域福祉活動計画がB、健康増進計画がB、高齢者保健福祉計画がB、障がい者福祉計画がB、子ども・子育て支援事業計画がAということで、福祉プランとしての評価がBとなった。

(3) その他

次回懇話会（平成31年3月頃）予定。改めて日程調整をさせていただく。

3. 閉会

以 上